

怒りを闘うエネルギーに

JAL 争議団 林 恵美

不当解雇されてから、6 度目の暑い夏が過ぎた。今年は参議院選が 7 月に行われ、暑さに拍車をかけた。

安保法制（戦争法）廃止を求める野党十市民の共闘は全国に 32 ある一人区で 11 勝という素晴らしい結果を生んだ。愛媛では、8 千余票差まで迫り、ギリギリの所で悔し涙をのんだ。

全ての穏やかな日常生活は、平和な社会であることが基本だが、民間航空もあり。安保法制と秘密保護法が実施されれば

日本の航空会社はテロに狙われる事は間違いないだろう。改憲派は 3 分の 2 を占めたが、市民共闘は負けたのではない。「勝ち負けの 2 分法で考えるのはおかしい。反対運動には大きな意味がある。反対運動が強ければ強いほど法案の実効性は失われていく」（丸山眞男・政治学者）

これからの、立憲主義と民主主義という日常をこの国で息づかせる運動は、発展していくに違いない。私達の解雇撤回運動は、そういう根源的な意味も含まれている。

限免職撤回訴訟の仲間にも 8 月 26 日高松高裁で不当判決が出された。真面目に働く者を企業や自治体の都合で一方的に切り捨て、それに安易に迎合する司法へのやるかたない怒りを表す言葉を今の私は知らない。理不尽を許さない闘いは、劣化した社会を質的に高め信用できる社会に変えていくことではないだろうか。

困難な事をやり遂げるには希望だけでなく勇気が必要だと誰かが言った。果てしない怒りを闘うエネルギーに変え、勇気を持って歩を進めていきたい！



8. 17 県庁前宣伝 JAL・社保庁争議団と支援の仲間

JAL 愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館 3F 愛媛労連内
松山市三番町 8-10-2 Tel 089-945-4526

日本のうたごえ祭典成功で
JAL の仲間たちの励ましに

林 一幸



1971 年、中央合唱団研究生の私に対して「メーデー歌集を 100 万部普及すること決めた。」と 500 冊のメーデー歌集が手渡されました。

右も左もわからない田舎者の私に「新橋を中心にメーデー歌集を広めるように」だけです。山手線に乗って新橋に下車。改札口を出て左側のビルに入りました。アポなし、紹介者なし、田舎弁丸出しで「JAL の労働組合」に行き、対応してくれた女性に、それこそ必死の思いで「メーデー歌集を買ってほしい」と訴えました。対応してくれた女の人は、すぐ組合関係の人と協議してくれて「200 冊頂きます」と話されました。嬉しくな

って「一曲歌いましょうか」と言うので微笑みながら「組合の集会があれば、お願いするかも知れませんが、連絡場所を教えてください」とのことでした。JAL の争議を聞き、この時を逃すとお礼する機会がなくなると思いました。

ずいぶん前のことですが、道後温泉の商店街で争議がありましたが、この時の事は今でも忘れられません。争議の内容は、商店街で働いた一人の従業員の解雇をめぐる、当時の地評や地区労の関係組合の人々が太勢支援にかけつけ道後温泉駅前に赤旗がゆれていたことを思い出します。

(裏面に続く)

さらに 頑張る争議団

9月13日、JAL争議団らは、「空の安全を守る」為、そして「労働者の基本的人権を守る」為にと、日本共産党国会議員団に要請を行いました。議員団からは、清水忠史、山添拓、倉林明子議員が応対しました。



日本共産党国会議員団へ要請を行った争議団



倉林明子議員と争議団

その後どんな解決になったかは知りませんが、新聞でも大きく報道され話題になりました。巷では「首」にまでしなくても「奉公人が悪ければ店主が言って諭すのが人の道、あんなことでは店主の人間性が疑われる」ともっぱらの噂話。

先日「THEMIS」という雑誌に日本航空元会長伊藤淳二氏の手記が載りました。元力ネボウ会長の伊藤氏は、右翼の瀬島隆三や中曽根康弘氏などとするんだ右翼経営者と思っていた。「明治時代から始まったこの紡績会社は全国から、いたいけない少女を集めて働かせ大きくなったとんでもない会社」と。

ところがこの伊藤会長の手記を見て驚きました。この伊藤会長が就任すると「第二組合の全労の無条件昇格に対し、日航労を徹底的に差別してきたが、それを止めさせ組合の所属に関係なく無条件に昇格させる」と、一切の差別をやめさせることを宣言し「同じ職場の、しかも大部分が大切な青春時代を送る女子乗務員が、二つの組織に分かれて、不信と対立にすぎゆくこの悲しい現実を、一日も早く解決することなしに日航の明るい明日はない」と述べたのです。しかし、このような民主的ともいえる考え方を持った経営者は「日航には必要なし」と、わずか2年余りでその職を引きずり降ろされました。

この伊藤元会長は、このようにも言っています。「稲盛氏が人間愛を説くなら、

生涯を日航に捧げた山口宏弥とその仲間を、誇りある日航人として全うさせるべきである」と。誠に立派な人であると思いました。そして稲盛さんにこの伊藤元会長発言の感想を聞きたいと思いました。

日本のうたごえ祭典が近づいて来ましたが、私はこの祭典を立派に成功させて「JALの仲間たち」の励ましの力になりたいと思っています。同時に争議団全員が一日も早く職場に帰れることを心から願っています。



自治労連全国大会（岡山）
（8月21日）



自治労連大会で愛媛の仲間と